



人類最古の植物🌸 ～亜麻に魅せられて～

橋本 俊彦 さん (はしもと としひこ)
当別町亜麻生産組合 事務局 ((有) 亜麻公社 代表取締役)

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第6回コンクールで奨励賞を受賞した「当別町亜麻生産組合」事務局の橋本俊彦さんにお話を伺いました。

《亜麻のふるさと～当別町～》

亜麻は明治初期に、繊維用として北海道で広く栽培されていましたが、昭和に入り繊維業界が化学繊維へ転換されたことなどから衰退しました。歴史的に貴重な亜麻をもう一度北海道で復活させようと、試行錯誤のうえ、当別町で約40年ぶりに、農薬を使わない栽培方法を確立させました。その後、産業として地域に貢献すべく2007年「当別町亜麻生産組合」が発足しました。現在は3件の農家で栽培され、事務局を(有)亜麻公社に構え運営しています。

《食と、リネンと、美しさ》

亜麻の魅力を3つご紹介します。

1つ目は『食』。亜麻の種子を低温圧搾した亜麻仁油にはオメガ3系脂肪酸*が豊富に含まれており、「食べるサプリ」と呼ばれ健康・美容に優れたスーパーフードです。



亜麻仁油ドレッシング

亜麻仁油

* オメガ3系脂肪酸には、 α -リノレン酸、EPA、DHAがあり、 α -リノレン酸は、亜麻仁油などに多く含まれており、EPA・DHAは、サバやイワシなどの青魚に多く含まれている。



事務局の橋本俊彦さん
「亜麻まつりin当別」は2025年7月6日(日)開催します

2つ目は『リネン』です。「リネン」は寝具を指す単語として使われていますが、亜麻繊維の名称です。亜麻の茎から取れる繊維は非常に丈夫で速乾性に優れており、古代エジプトのミイラの包帯にも使用されているほどです。

3つ目は『儚^{はかな}さゆえの美しさ』です。亜麻の花はうす紫色で日の出とともに咲き、午後には散ってしまいます。その儚^{はかな}さゆえの美しさがこの花の魅力です。ちなみに、誰もが知っている「亜麻色の髪の乙女」の亜麻色とは、花の色ではなく茎の繊維(リネン)の色で、灰色がかったブロード(金色)のことなのです。



うす紫色の亜麻の花

《日本唯一の亜麻まつり》

亜麻畑が一面に花で埋め尽くされる7月に「亜麻まつり」が開催されます。亜麻の展示・商品販売やフォトコンテスト、リネンの採取体験、「亜麻色の髪の乙女」歌唱コンクールなど、まさに亜麻一色のお祭ります。また、「亜麻カフェ」と題し、当別町の飲食店で亜麻仁油や亜麻の実を使用した期間限定メニューを提供するなど、地域一帯で盛り上げています。

《亜麻を絶やすな～次の世代への思いとは～》

人類に有用な作物として価値がある亜麻を、絶対に途絶えさせてはいけません。衣・食・住の幅広い用途を見だし、いろんなことに挑戦して、次の世代に引き継ぐためにも、この亜麻事業を確立させ「亜麻のまち当別町」を定着させたい。亜麻が次の世代にどんな使われ方をするのか楽しみにしていると、亜麻に対する熱量を感じ、「人類最古の植物・亜麻」の神秘的な魅力にどんどん引込まれます。

当協会ホームページ、「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子『生産空間の活性化に資する地域事例集』をご覧ください。

